

経営比較分析表（平成30年度決算）

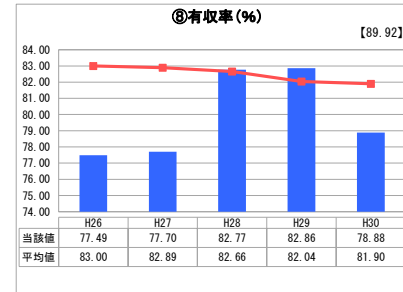
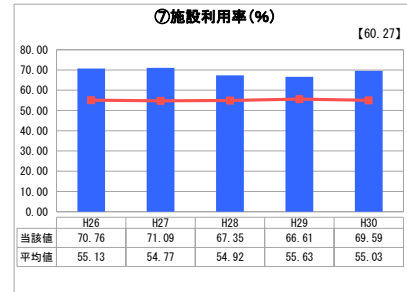
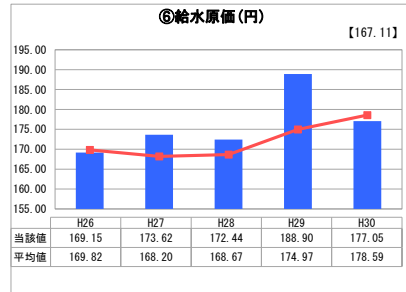
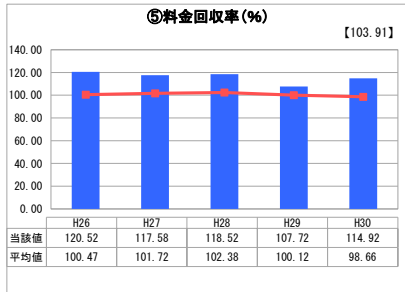
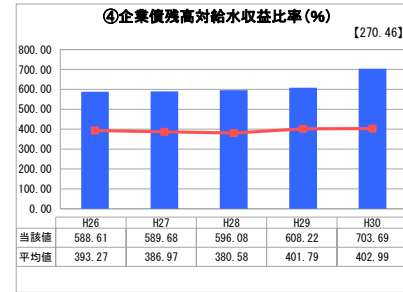
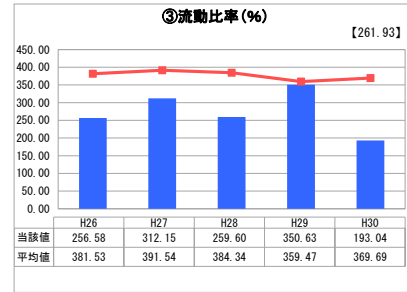
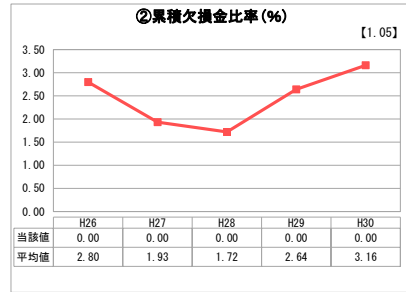
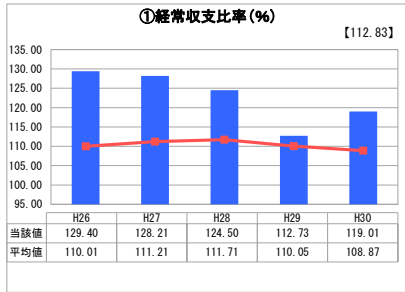
岩手県 大船波市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	53.30	77.89	3,425	

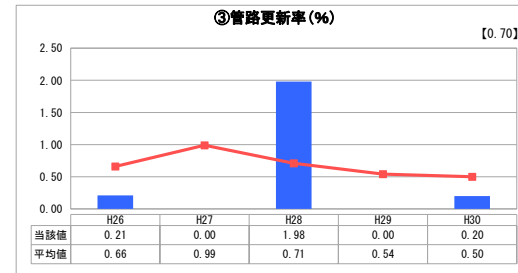
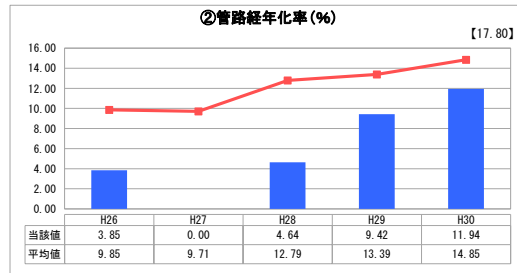
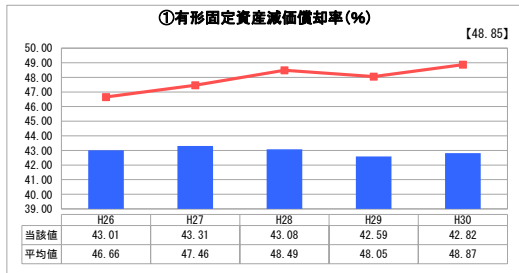
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
36,655	322.51	113.66
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
28,224	20.50	1,376.78

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率**
東日本大震災の影響による給水収益の減少が改善し、継続的に黒字を計上する安定化傾向にあります。しかしながら、将来的には、給水人口の減少等により給水収益も低下すると見込まれます。
- ②累積欠損比率**
累積欠損金はありません。
- ③流動比率**
短期的な債務に対する支払能力は、100%を上回る水準を維持しており、支払能力に問題はありません。
- ④企業債残高対給水収益比率**
給水収益は平成28年度をピークに減少しており、加えて、現在整備している浄水場の財源についても、企業債を予定していることから、今後、当該比率がより高まることを見込まれます。
- ⑤料金回収率**
給水収益は減少しているものの、平成26年度以降は100%以上を維持しており、給水に係る費用が給水収益で賄われていることを示しています。
- ⑥給水原価**
類似団体と比較してやや低い水準となっておりますが、現在整備している浄水場の減価償却費の増加等により、当該原価が高まることを見込まれます。
- ⑦施設利用率**
類似団体と比較して高い水準となっておりますが、配水施設が効率的に利用されていることを示しています。
- ⑧有収率**
配水管の更新など漏水防止の取組により、類似団体と同程度の水準を維持していましたが、新たな漏水箇所の発生により低下したことから、更なる漏水防止対策に努めます。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率**
各年度、ほぼ一定の割合で推移しており、類似団体よりも低い水準にあります。今後、復興事業等で整備した施設に係る減価償却費の計上により、上昇傾向になることを見込まれます。
- ②管路経年化率**
復興事業に伴い老朽管の更新が進んだことから、類似団体よりも低い水準となっております。
- ③管路更新率**
復興事業による管路更新は、耐用年数到来前のため更新実績にはなりません。今後更新時期を迎える老朽管も多数あることから、計画的な更新を進めていく必要があります。

全体総括

経営の健全性・効率性は概ね良好な状態を維持していますが、現在整備している浄水場の完成には、企業債残高及び減価償却費の増加が見込まれます。加えて、給水人口の減少や節水器具の普及により、給水収入は減少傾向にあり、経営環境は厳しさを増すことが予想されます。施設老朽化の状況については、昭和40～50年代に布設した送配水管等が、今後、更新時期を迎えるため、財源の確保を図りながら、より計画的な事業実施が求められます。これらの課題に適切に対応するため、令和2年7月に水道料金の改定を予定しており、効率的な事業運営に留意しながら、健全経営に努めます。